



岸和田市郷土文化室（自然資料館・郷土資料館）

平成 18 年 9 月 1 日

植物標本作成のススメ

村上 健太郎

夏休みは、たくさんの親子が、自由研究の質問に、自然資料館に来館されます。自然資料館では、こうしたニーズに応えるべく、これまで夏休みの前半に、昆虫、貝や鉱物などの標本づくり講座を行ってきましたが、植物については、ここ 2 年間講座を行わなかったためか、去年はあまり植物標本が持ち込まれませんでした。「これはいけない」と思い、今年の 8 月 6 日に、2 年ぶりの講座を行ったところ、定員を越える申し込みがあり、植物担当の学芸員としては、ほっと一安心したところです。

いかんそく
維管束植物（根・茎・葉のある植物）では、ふつう押し葉標本を作ります。新聞紙の間に採ってきた植物をはさみこみ、その間に植物から染み出す水を吸い取るための紙（吸い取り紙）をかませて、押し板・重石をのせて作ります。ふつう乾燥するまでに 1 ～ 2 週間かかりますが、その間に、しわをとったり、手直し作業をしておけば、よりきちんとした標本ができます。できあがった押し葉は台紙に張り、ラベルをつけてできあがりです（図 1）。



図 1．植物の押し葉標本

しかし、実際にやってみると、植物の魅力である花の色や、鮮やかな緑色を残すのは、ずいぶん難しいことがわかんと思います。現在のようにデジタルメディアが普及する以前から、押し葉標本は展示向きではないと言われてきました（本田・矢野，1977）が、これは、色が残らないことが大きな理由です。標本を作る際に色を残すための工夫として、花などの色を残したい部分にティッシュを置いたり、風通しのよいところで、できるだけ早く乾燥させるなどの方法がありますが、心持ち色が残りやすいという程度のものです。フラワーアートの分野では、押し花シートやシリカゲル（乾燥剤）など、色を残すためのグッズも市販されていますから、それらを使え

ば、より色が鮮やかな標本を作ることができます。しかし、これらの方法で作った押し葉も湿気には弱く、乾燥剤を入れたケースに密封しておかなければ、すぐに色は落ちてしまうようです。一方、デジタルカメラが普及した今では、そのときに見た花の色をデジタル画像として、半永久的に残すことができるようになりました。それどころか、暗めに写っていたら画像を明るくすることもでき、ぼけていたら画像にシャープをかけてクリアにすることすらできます。植物の色をそのまま残すという点に関しては、押し葉標本はデジカメやスキャナにはかないません。



図2．植物標本を保管する棚

では、なぜ博物館では植物標本を作り、大切に保管しているのでしょうか？まず、標本は実際に手にとり、さまざまな角度から立体的に見ることができる（清水，2006）という点が、写真とは明らかに違います。デジカメなどで撮った写真は、見たい部分を拡大すると解像度が落ちてよくわからなくなることがありますし、裏側を見ることができません。写真だけで見分けられる植物も、もちろん中にはありますが、見分けるためのポイントが写真に写っておらず、見分けられないことのほうが多いのです。大規模な博物館では、数多くの標本を作成・保管しており（図2）、さまざまな地域の標本を比較したりすることもできます。また、個人で集められる標本の数は限られていますが、博物館ではいろいろな人が採集した標本が集まっており、自分が採った標本とこれらを見比べることもできる（清水，2006）のです。

ここ数年、当館に寄せられる植物の質問では、写真や電子メールの添付画像が用いられる例が増えてきました。デジタルメディアが手軽に利用できるようになった現在、植物の研究者以外では、植物標本を作ろうという人は減りつつあるように思います。しかし、押し葉標本の有益さは今でも全く変わりません。いくらパソコンやデジカメが進化しても、本物の標本でしかわからないことが実はたくさんあるのです。私はシダ植物を専門に研究していますが、わずか数 mm の部位や細かい毛の有無を見なければ、種類が見分けられないものがたくさんあります。カメラや顕微鏡などを用いて、この部位を撮影してくれていれば見分けることは可能ですが、その植物に詳しい人でなければ、撮影すべき適切な部位がわかりません。標本があれば、この問題は起こりません。その意味でも、美しい画像を手軽に保存できるようになった今こそ、ぜひ本物の標本づくりに挑戦してもらいたいのです。標本と採集地の環境や状況の画像をセットにして保存することが手軽にできるようになりつつありますから、植物標本を使った自由研究は、以前よりもいろいろな工夫がしやすくなっているでしょう。最近インターネット経由で地図も入手しやすくなりましたから、地図画像についても手軽に標本の脇に貼り付けることができるようになりました。これらのことも含めて、いろいろな工夫をしながら、ぜひ学校の先生には植物標本作成の指導をしてもらいたいと思います。

これから、季節は秋、そして冬へと移りますが、植物標本の作成は、夏よりもむしろ春や秋など、植物の花がよく咲き、気候がよく、歩きやすい時期のほうが適しています。総合学習や理科の授業の中で、ぜひ植物採集と標本づくりに挑戦してみてください。標本の作成法については、自然資料館で販売している『はじめての標本づくり』などに掲載されています。植物標本についてご質問があれば、ご遠慮なく自然資料館の村上までご連絡ください。

(むらかみけんたろう：自然資料館)

(引用・参考文献)

本田正次・矢野佐(1977)『植物の観察と標本の作り方』, ニューサイエンス社.

きしわだ自然資料館(2001)『はじめての標本づくり』, きしわだ自然資料館.

清水晶子(2006)「植物標本とその防虫対策」,『クリンネス』, 245号: pp. 2-7.

史跡めぐり / 郷土資料館の資料から

山中 吾朗

ひょうす 兵主神社(西之内町)

南海和泉大宮駅の「大宮」が兵主神社のことであることはご存知の人も多いかと思います。兵主神社は、延喜式えんぎしき神名帳しんめいちょうに記載されているいわゆる延喜式内社で、旧加守郷(加守・西之内・下松・上松・尾生・額原・包近・藤井・別所・沼・野・春木村)の総社です。天正年間(1573-92)に兵火に罹るまでは、これらの村々から一人ずつ禰宜ねぎを出していましたが、天正年間以後は西之内村だけで祭祀



兵主神社本殿

を行うようになりました。しかし、江戸時代以後も旧加守郷という地域的まとまりは維持され、旱魃かんぱつの時の雨乞いの神事などは各村の庄屋・年寄たちが参加して行われました。境内に「蛇淵」と呼ばれる旱魃の時にも決して干上がらないという淵があり、当社は雨乞いの神としても地域の人々の信仰を集めました。また、当社に伝わる9面の能面は「雨降りの面」と呼ばれ、雨乞いの際には社殿前に安置されたものです。岸和田藩主岡部長著おかべながあきらは寛保3(1743)年に面を納める袋を寄進するなど、岸和田藩主の尊崇も厚かったようです。本殿は桃山時代の建築で、国の重要文化財に指定されています。

けんによこう き 顕如光佐書状

紀伊国鷺森(和歌山市)にいた本願寺第11世門主顕如光佐から、岸和田城に入城した蜂屋頼隆はちやよりたかに宛てて、門徒

の本願寺参詣の安全保障を依頼した書状です。蜂屋頼隆は織田信長の家臣で、天正9（1581）年に織田（津田）信張とともに岸和田城に入りました。これ以前、元亀元（1570）年から天正8年までの10年間、本願寺は織田勢と合戦を続けました（石山合戦）が、^{おおぎまち}正親町天皇の仲介もあって和睦し、顕如は後の大坂城の地にあった大坂本



顕如光佐書状

願寺を退去して紀伊国鷺森に移りました。こうして岸和田城は信長の家臣が常駐し、信長政権が和泉国を治める重要な城郭となりましたが、この書状の翌年、本能寺の変で信長政権は倒れました。

（やまなかごろう：郷土資料館）

Information

■ 郷土資料館からのお知らせ ■

企画展「岸和田の古絵図」

郷土資料館で収蔵する市内各地の古絵図約25点を展示します。

- ・ 期間：開催中（2006年10月1日（日）まで）
- ・ 場所：岸和田城天守閣1階展示室
- ・ 時間：午前10時から午後5時（入場は4時まで）
- ・ 入場料：大人200円 中学生以下無料
- ・ 休館日：毎週月曜日

秋季特別展「岸和田人物誌」

岸和田地域の歴史に関わり深い人物約20名を取り上げ、その肖像画や関係資料を展示します。

- ・ 期間：2006年10月5日（木）～11月26日（日）
- ・ 場所：岸和田城天守閣1階展示室
- ・ 時間：午前10時から午後5時（入場は4時まで）
- ・ 入場料：大人400円 中学生以下無料
- ・ 休館日：毎週月曜日（10月9日は開館）

■ 自然資料館の行事予定 ■

講演会「山はなぜ高い？地質調査でわかったこと」

NHK高校講座「地学」でおなじみの久田健一郎氏による講演会です。「地質学は面白い」をテーマに、ヒマラヤなど世界中の造山帯の写真を使いながら地学の面白さを紹介します。

- ・ 日時：2006年11月3日（土）13時30分～16時
- ・ 場所：自然資料館1階ホール
- ・ 講師：久田健一郎氏（筑波大学大学院生命環境科学研究科助教授）
- ・ 定員：地学に興味をもつ小学校高学年以上50名（小学生は保護者同伴で）
- ・ 申込：当日13時から受付・先着順

お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423-8100 FAX: (072) 423-8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>
Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です）